

1 医療に果たせること、果たしえぬこと

震災の被災地に立つて

日野原——「いまこそ看護を語ろう」というこの企画は、三月十一日の大震災を私たちが体験するよりも前に始まりましたが、あの震災は、こうして看護を語る意味をいっそう強く私たちに問いかける契機になったように思います。

今日、ここに集った特別養護老人ホーム^(*)の常勤医^(*)でいらっしゃる石飛幸三先生と、長年にわたって看護を実践してこられた川島みどり先生、そして私の三人は、それぞれに看護への期待を強くもっているという点で共通しています。ただ、こうして三人で語り合うのは初めてのことですね。今日はまず、先の震災のことを取り上げながら、三人でこれからのあるべき医療、ことに看護の意義と役割について語り合ってみたいと思います。

私も実は五月の連休中に、津波で大きな被害を受けた宮城県・南三陸町の病院と避難